

教育目標 **なかよく（徳） かしく（知） たくましく（体）**

1 めざす学校像

『笑顔輝く学校』 学ぶ喜びにあふれた学校、働きがいのある学校

(1) 明るく活気に満ちた学校

- ・子どもたちが、見通しをもって「挑戦する意欲」をもつ。（子どもの伴走者としての教師の役割）
- ・子どもたちに「〇〇したから△△できるようになった」と自覚させる働きかけを意識する。
- ・結果よりも、そこに至る過程を認める言葉がけを工夫する。（ほめると認めるは違う）

(2) 信頼で結ばれ、心の通い合う学校

- ・学校・家庭・地域がそれぞれの役割を理解し、連携して教育活動を推進する。（子どもが変われば親が変わる、親が変われば地域が変わる・・・教師が笑えば子どもも笑う）
- ・自学級のこと、学校全体のことを考え、仕事の隙間を進んで補い合う教職員集団。
- ・家庭と仕事を両立し、生き生きと子どもの前に立つ職員。（学校+個人の働き方改革を推進する）

(3) 潤いのある、安全安心な学校

- ・美しく潤いのある教育環境を、教職員も子どもも進んで整え、瑞々しい感性を磨く。（整理・整頓）
- ・心理的、物理的に安心して学校生活を送れるよう、社会的スキルの育成を図る。（状況に応じた感染対策、環境整備 + 子どもの危険予知能力の向上）

2 学校経営の基盤

- I 特別支援教育を中核とした「分かる授業」の実践
- II 全教育活動を通じた自主性・社会性の育成
- III ふるさと・燕に生きる教育の実践

3 具体的方針

I-①困り感をもつ子どもを全職員で支える体制作りに努める。

- ・UDLの考え方を取り入れた授業の実施（困り感をもつ子が分かる授業はみんなが分かる授業）
- ・校内委員会を核とした組織的対応、医療等外部機関との連携の強化

I-②豊かな表現力育成に向けて授業改善を進める。

- ・リーディングスキルを土台とした読解力（Input, Thinking, Output）の育成を目指した校内研究
- ・授業終末における振り返り（学年×1行）の習慣化、発言時に最後まで話しきるスキルの育成
- ・昨年度の教育実践をベースに、ICTの特長を生かした効果的な指導法を探る。（一人1台タブレットの効果的活用）・・・学校での活用&家庭での活用方法の探求

II-①人とかかわるためのツールとしてのあいさつの質の向上を図る。

- ・朝のあいさつ「おはようございます」の徹底。（目を合わせ、笑顔で、会釈しながら、相手に聞こえる声で）昼のあいさつ「こんにちは」は積極的に励行。（来客対応につながる）

II-②縦割り班活動、宝物ファイルの取組を通して自己有用感を育成する。

- ・異学年交流のあり方の探求、効果的な活動の積み重ね
- ・宝物ファイルの取組に関する共通理解と歩調を合わせた共通実践
- ・他とのかかわりの中で自ら考え、行動する自立した子の育成（特別活動を中心に）

III-①「ふるさと燕」に積極的に働きかけ、ふるさとを愛する心や豊かな心を育てる。

- ・CSとして生活科、「総合」を中心とした地域の歴史・自然・文化や素材を生かした活動の推進
  - 【低学年】地域をフィールドに活動し、地域を好きになる。・・・<地域で学ぶ>
  - 【中学年】地域のよさを知り、外部へ発信する。・・・<地域を学ぶ>
  - 【高学年】地域人たちとともに学び、地域の未来を考える。・・・<地域と学ぶ>

III-②家庭・地域と目的を共有し、連携のあり方を考える。

- ・家庭や地域との連携強化、開かれた学校づくりの一層の推進（地域コーディネーターの活用）
- ・学校日より、学年日より、HPを通じて子どもの育ちを発信する。